

(仮称)第7次名張市総合計画
『市民ワークショップ』

開 催 概 要 記 録

2015. 1

1. 『市民ワークショップ』の概要

《目的》

(仮称) 第7次名張市総合計画の策定に当たり、市民と職員が協働で本市の諸課題や地域の個性、期待する市の将来像に関し意見交換を行い、その内容を総合計画基本構想の素案策定の基礎資料とすることを目的に市民ワークショップを開催する。

《メンバーの構成》

有識者 1名
公募市民 6名(30代男性、50代女性、60代男性×3名、60代女性)
市職員 11名(総合計画策定庁内ワーキングメンバーより)

○市民メンバーの募集 [参考]

対 象 市内在住の18歳以上の名張市のまちづくりに対して意欲のあるかた
募集人数 10名程度
募集期間 10月6日(月)～10月24日(金)まで ※最終日到着分まで
応募方法 所定の申込用紙に必要事項を明記のうえ、直接持参、電子メール、ファックス、郵送(最終日到着分まで)により提出
提出先 名張市 企画財政部 総合企画政策室
選考審査 応募者多数の場合、性別年齢構成に偏りのないよう選出をする
周知方法 市ホームページ(10/3～)、市広報(10/5号)にて周知
報酬等 このワークショップへの参加に関する報酬・旅費等は支払わない

《内容》

第1回 11月10日(月) 午後3時～

テーマ『名張市の現状と課題』

第2回 12月 1日(月) 午前10時～

テーマ『期待する“まちの将来像”』

第3回 12月22日(月) 午後3時～

テーマ『理想の将来像の実現に向けて』

第4回 1月 8日(木) 午後3時～

テーマ『新たな総合計画への意見のまとめ』

2. 概要記録

【第1回】平成26年11月10日(月) 午後3時～午後4時30分

1. あいさつ

※総合企画政策室長より

2. ワークショップの開催目的について

※事務局より説明

3. 有識者の紹介

※事務局より紹介

4. 自己紹介

5. 名張市の現状と課題

※パワーポイント資料に基づき事務局より説明

6. 意見交換（「●」座長、「○」市民及び職員、「⇒」事務局）

●意見交換を始める前に

- ・発言時間は出来るだけ手短かに。
- ・だれも相手の発言をさえぎることなく、違う意見にも耳を傾ける。
- ・これまでの経験や立場、年齢を問わず、ここでは全員が平等な立場で発言する。という事でよろしくをお願いします。

本日は、まず「名張ってどんなまちですか」をテーマに意見交換を進めたいと思います。名張に対してどのようなイメージをお持ちか、率直な意見をいただきたい。

○名張は人口過剰だと思う。人口を増やすような計画が目立つが、名張の地形と自然を考えるとそんな時代ではなく、環境の自給自立を目指すべきと考える。また、事務局の説明で「市民力」等の言葉あったが、全員で共通認識をするためにも定義をはっきりしないと議論が噛み合わないと思う。

●名張らしさ、名張市の強みを議論する中で、このような言葉が出てきたのだろうと思う。まさに名張らしさ、名張の強みに気付くための意見交換が出来ればと思う。

○40年住んで非常に良いまちと感じている。その前提として、自らがいろんなことに参加する事が出来ればこんな安心安全で住みやすい、健康づくりも盛んなまちは他にないと思っている。各論では言いたいこともあるが。

○私が引っ越してきた所は比較的閉鎖的な場所と感じるが、一方では、とても地域の絆が深い所とも感じた。

●まちづくりに進んで参加をしたり、まちに対して強い関心を持つことでコンセンサスがとれるのかなと思う。

○地域のつながりを今まで知らなかった。回覧板とかも来ていたのかなといった感じ。名張のイメージとしては、特に生産年齢人口が減っていく中、今後も安心して住んでいけるのかが不安である。

●人口推移と高齢化率を見ると、名張市は、全国区と比較して急速に高齢化が進んでいくことが読み取れる。同時に生産年齢人口も減少が進んでいく。

- 人口は増えなくても良いという意見を伺って、今ある環境を循環させることも大切だとも思った。しかし先ほどの生産年齢人口が減るという話もあり、住み続けるという事を考えると、子どもの世代に色々なつげが回るのではと不安も感じる。
- 自然環境が豊かで、星、水、空気が綺麗。子どもの喘息も治った。高齢になると運転免許も返すことになり、買物等の生活を変える必要も感じている。時間を戻すことは出来ないが、もう少しゆっくりとした感じで市政も進められたらどうかと思う。
- 職員の皆さんからも意見をいただきたい。
- 若い世代の人たちに移り住んでもらいたいと考える。
- 子どもが多いと元気なまちというイメージになる。名張市は元気なイメージがある。
- 10年の構想を練るには30年先を見据える必要がある。人口減少や少子化は全国的な問題であり、それをネガティブにとらえるのではなく、アクティブにとらえることで「なばり力」に置き換えることができる。和歌山県東牟婁郡北山村は、商工会議所に48くらいしの事業所しか加盟していない小さな村だが、スナックが3件もあり成り立っている。特産品の「じゃばら」という柑橘系果実で村も活性化しており、雇用の創出にも尽力している。
ネガティブなイメージが前に出てきてしまえば、大阪へ帰ろうかという事につながる。交通の便、医療の面を考え実際大阪へ移り住む方も随分いる。こういった現実も踏まえ、どうしていくかという事を考え計画を進めていかなければと思う。
- 暗い話をしていくと計画も縮こまってしまう。30年後にどんなまちになっていて欲しいかという事を意識しながら、また、名張の良い部分を伸ばすような形で10年間の基本構想とそれを実現するための3年間の基本計画を考えていく必要がある。
- 人口の総数は減っているが、20年前の60代とこれからの60代は違う。活動人口という考え方で、生涯現役、地域主権、担い方を変えていき、それぞれが活躍できる場を作っていきたい。
- 人口が減ることに憂うのではなく、名張の大切な自然を残しながら、小さくてもいきいきしたまちにしたい。誰がこの地域の主人公になるのか、どの年齢層か、働く人が主人公なのか、人口の問題だけではないのではないのか。
また、構想と計画の両方を議論することは難しいのではないだろうか。
- ⇒このワークショップでは、名張の10年後、20年後、将来像について議論していただきたいと思っている。
- 中央公園の桜は半分ほど枯れている。今あるものを大切にしてもらいたい。特に、自然を大切に、命を大切にすることを基本理念にして、名張市を発展させていくような考え方を持ってほしい。
- 新しいことをやると同時に、古いものをもう一度見直して、そちらに対するケアを行っていくことも大事であるとの意見をいただいた。第2回のタイトルは「期待するまちの将来像」強み、弱み、改善すべきところ、名張市を将来どんなまちにしたいのか、あるいはどんなまちにすべきか、これらについて議論していきたい。

以上

【第2回】平成26年12月1日(月) 午前10時～正午

1. あいさつ

- ・総合企画政策室長及び座長より

2. 意見交換

テーマ『期待する“まちの将来像”』

○名張市の“強み”は？（良い所・守りたい所）

- ・自然が豊かで歴史（東大寺・古墳群）もある。
- ・子どもの教育にも良い。
- ・ハードよりソフト面で誇れるまち。
- ・自然豊かで心も豊かに暮らせる。男女共に健康寿命が平均より高い。
- ・大阪・京都・名古屋へのアクセスが便利。
- ・ぶどう、米、酒などの名産品もある。
- ・地域づくりが熱心に行われている。
- ・子育て相談なども充実している。
- ・人材の豊かで、自治会の活動が盛ん。
- ・人の数や都会との距離など、ゆっくりと生活するのに丁度良いまち。
- ・田舎と町が混在しており、地元農産物がスーパーで買える。地産池消の取組が行われ、小学校給食で取り入れている。
- ・日頃の生活の中で四季を体感できる環境。厳しすぎない自然環境。温泉があるのも魅力。
- ・人口規模の割には病院施設が充実している。
- ・体を動かすことのできる場所が多い。
- ・住宅開発により人口が増え始めてかなりの年月が経過し、新旧住民の交流の中に、一体感が生まれてきている。
- ・地域資源（人、歴史文化、自然）が豊富。
- ・人と人のお互い様という繋がりが大きく育ってきた。
- ・自然の豊かさ、農村部と都市部の交流により地域の力や人材の豊かさに繋がっている。
- ・多くの名張市民が『名張が良い』と言えることが名張の一番良い所と思う。
- ・自然（地形・気象・生物）と社会の関係で、自然は人間がつくったもの。このまま環境劣化を放置してよいのか。
- ・名張の地域力は他に誇れる。地域の人同士の見守りや協力で地域がどんどん育っている。
- ・自然災害に遭いにくい。
- ・地域力が凄い。地域づくり組織。
- ・都会への程よい距離。
- ・住宅地や公共施設が点在しており、それらを繋ぐアクセスなど横の繋がりが不十分。
- ・車の運転が出来ない人には不便なまち。
- ・財政的に弱いことに危機感を持つ。重点施策を掲げる必要がある。
- ・名張市外の人たちが名張を知らない。情報発信力が弱い。総合的に見てプラスな町であることを知らせたい。
- ・ソフト的な豊かさを追求すべき。

○名張市の“弱み”は？（悪い所・改善が必要な所）

- ・車がないと不便。
- ・若者が定着しにくい環境（学校や職場など）
- ・公共交通機関（バスなど）の本数が少ない。高齢者の活動の妨げになる。
- ・シティプロモーション力が弱い、社会関係資本は強いが、社会基盤整備が弱い部分がある。人口構成率からみると将来が不安。
- ・自然の恩恵を受けているのに、感謝の気持ちを忘れているところが弱み。
- ・旧町ではあまり住民の一体感を感じない。
- ・日本酒で乾杯条例は良い発想。しかし、広報力が弱い。もっとPRするべき。
- ・起伏の激しい地理的条件のため、マイカー利用率が高く、それに伴い公共交通機関の利用者も減っている。環境にも良くない。
- ・便利になりすぎて、必要以上の物を求めるようになってしまった。これまで駆け足で来たが、もう少しゆっくり歩いてみるべき。
- ・核家族化や高齢化により、今後も助け合いの環境が持続できるか心配。
- ・人口は減るが世帯数が増えている。核家族化が進行し、親子間・家族間の絆が薄れている。
- ・若者の名張離れ。
- ・部落差別への取組が、結果的には将来へ引きずることになっているような気がする。
- ・名張市はパンチが不足している。伊賀牛、伊賀米と言うが、いっそ「名張米」にしては。
- ・風情ある古い町並みも今は寂れてしまっている。
- ・子育て世代が住むための動機付けになるものがない。
- ・総合計画の“福祉の理想郷”という言葉は、市民の幸せを総括して言っているが、どうしても高齢者福祉をイメージしてしまう。別のフレーズを考えてはどうか。
- ・教育レベルが低い、個人の幸せを大事にする教育を望む。スクールワーカーの導入も検討してはどうか。
- ・就職先がないため、優秀な名張の人材が大阪方面へ流出している。
- ・消費についても、大阪へ流出して地元経済が発展していない。
- ・昔と比べてバスの本数が減り不便になった。
- ・旧町の賑わいが無くなり寂しくなった。
- ・名張駅に降りた時に8万人の町と感じない。住宅が点在し効率が悪い。
- ・旧町は自転車移動できる地域。あり方を見直してはどうか。
- ・住宅団地が名張市内に点在しているため、効率が悪い。
- ・希中央の整備が進み、旧市街地の古き良き街並みが廃れた。
- ・都心部の地価が下がり、関西圏から転入する人が減った。今の時代、大阪から1時間の距離が遠いと感じる。
- ・中学校給食がなく、校舎の耐震化も遅れている。他市と比べ、学校のテニスコートも整備が遅れている。

3. グループ討議

○名張をどんなまちにしたい？

- ・教育の充実したまち。学力レベルを全国平均くらいまで向上したい。
- ・子どもの地域活動への参加や、地域への関心の低さも問題。大人（地域）と子どもの触

れ合いを増やせば学力向上にも繋がるのでは。

- ・自然環境を残し自然豊かなまち。（自然環境の中には、旧町のまちなどの文化も含む）
- ・心の豊かさを感じるまち（地産池消、安心安全、誇りを持てる）
- ・人の訪れるまち、賑わいが感じられるまち（赤目滝など）
- ・子育てしやすいまち、生涯を通じての人づくりのできるまち。
- ・旧町は名張の顔。もう一度、旧町に集約すればどうか。公共交通機関を整備すれば、旧町内は自転車でも周遊できる環境がある。
- ・若者が帰って来るまち。新しく住んだ方々が故郷と思える様なまち。
- ・このようなワークショップなど、交流の場が市内あちらこちらで開催されるようなまち。
- ・外から見て住みやすい、内から見て住んで良かったまち、自然都市名張。
- ・社会的弱者に優しいまち。
- ・デメリットをメリットに変えていく。
例）市役所の機能の一部を、旧町の空き家など便利な場所に分散させるなど。
- ・子どもはまちの資産であり、勉強だけでなく、しつけなど人の質の充実といった教育の充実が必要。
- ・市民の8割以上が住みごこちが良いと言っている。そういった名張市の良さの発信が不足している。
- ・市民みんなが自分のまちに関心を持ち、まちの将来を考えることが出来る様なまち。
- ・今は“質”の時代。幸せを感じることができるまち。

以 上



【第3回】平成26年12月22日(月) 午後3時～午後5時

1. あいさつ

- ・総合企画政策室長及び座長より

2. 前回の意見のまとめ

3. グループ討議

テーマ：『理想の将来像の実現に向けて』

※6つのカテゴリーごとに討議（討議20分、発表10分 ×2回）

テーマ	具体の目標「何がどうなればいいのか」	具体の取組「これから何をすべきか」	協働によるまちづくり「だれが何をすべきか」
自然 ・ 景観	・皆が自然に敬意をはらう。	・人が活動することによって手を入れて成立させていく。	・地元の人だけでなく、若い人や他地域から来た人たちも一緒に創っていくべき。
	・調和のとれたまち ・自然を残しつつ景観を整備。	・市民の方をはじめ、いろいろな方に自然の良さを知ってもらう。 ・自然との調和のとれた整備。	・エコツーリズム。 ・市民の方に環境保全に対する意識を持ってもらうことが大切。
子育て ・ 教育	・若者が、名張で子育て教育をしたいと思えるような環境整備をする。	・保育の充実 ・産婦人科 ・通学路整備、スクールバス、中学校給食 ・地域での見守り体制	・行政は、施設や環境の整備。 ・市民は地域で子どもを見守り育てる環境づくり。
	・名張に住みながら、大学も含めた高等教育が受けられるような環境の充実。	・魅力ある学校「近大高専」を知ってもらう。	・いじめ問題や英語教育の実施といった、教師の負担を軽減する取組が必要。
賑わい ・ 若者定住	・若い人に選んでもらう。 ・名張に魅力を感じてもらおう。 ・住むなら「名張」	・シティプロモーション ・働く場の提供（廃校舎や民間の空き店舗等を利用し、ベンチャー企業等の誘致）	・企業、商工会議所、商店街連合会、近隣等を巻き込み内外へ売り込む。 ・市民は名張が住みやすい場所であることを発信する。
	・交流人口（観光客）を増やす。	・今ある観光資源を活かす。（商業施設やテーマパークは必要ない。） ・話題性や目玉・特色づくり（グルメ、ゆるキャラ、体験型観光など） ・観光PRの強化（名張を知ってもらうきっかけとして）	・市役所に、総合的に名張市をPRするための担当部署の設置が必要。（縦割りでは無理）

健康 づくり	<ul style="list-style-type: none"> 健康で長生きできるまち。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が要介護状態にならないための予防活動。(ラジオ体操や、公園内の健康用具整備。健康への関心を高めるための啓発。) 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会や、まちの保健室から予防活動の指導。 市民を巻き込んだ活動。
	<ul style="list-style-type: none"> 平均寿命より健康寿命に重点を置いた取組 いつまでも元気で長生き 	<ul style="list-style-type: none"> 既に良い施設がたくさんある。それらを最大限に活用する。(そういった施設を知らない人もいる。) 	<ul style="list-style-type: none"> 市民同士の情報交換や誘い合い、声の掛け合いで、施設を利用する人が増える。
人 ・ 地域コ ミュニ ティ	<ul style="list-style-type: none"> 30年を見たとえでの10年の視点。 安心安全なまちづくり。(国際化が進みデジタル化が進んでも、変えてならないもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 安心安全のための生活インフラ整備 グローバル化社会で国際人としての人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 公の担うところ、地域の担うところ。攻めるところと守るところ、変えてよいところ、悪い所の見極め。 条例の制定により戦略的都市の形成
	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に様々な活動をする“活動市民”が増えればよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 名張花筏の経験から、まず市民活動をする人を増やす。増えれば、色々な活動の種類を増やしたい。市民の皆さんにはできるだけ活動に参加して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場、役割分担等のない活動。 行政には活動の土俵作りと活動情報の提供をしてもらう。
道路 ・ 交通	<ul style="list-style-type: none"> 子どもから年寄りに至るまで、安心して楽しく安全に歩ける道路の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰でもが利用できるコミュニティバスの充実。 地域の助け合いが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 私は何をすべきかをまず考えるべき。皆それぞれが何をすべきかを考えることで、まちは良くなっていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 安心安全な道路の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 広域的な取組、空港バスの運用、救急ヘリ等。 車の入らない地域の整備。東ヨーロッパのまちづくりを参考に。 道路にシンボリックなものを作り観光に利用。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスの確立。地域だけでなく民間を活用した運用。

以上

【第4回】平成27年1月8日(月) 午後3時～午後5時

1. あいさつ

- ・総合企画政策室長及び座長より

2. 前回までの振り返り

3. グループ討議

テーマ『新たな総合計画への意見のまとめ』

※こんなまちになったらいいなあと思うキーワードから、理想のまちの将来像を、各班5つ程度発表

○自然健康都市名張

- ・自然、健康の守りと攻め
- ・ハードとソフトの両立、安心安全

○3世代が安心して暮らせるまち

- ・仕事づくり、農業の6次産業化
- ・3世代が安心して暮らせるまち

○市民参加型のまち

- ・共生、共助、公助、自助

○子育てが楽しいまち

- ・子育て世代、若者が名張の魅力を感じてもらいたい
- ・名張に住んで良かったと思ってもらえるまち。

○教育環境が充実したまち

- ・公共施設のメンテナンス等
- ・子どもたちが楽しく学べる。

○高齢者の社会参加の受け皿があるまち

- ・年齢に関係なく働ける環境。

○誰もが生きがいをもって健康に暮らせるまち

- ・市民が主役であり担い手となる。(行政は補助、支援)
- ・どの世代も楽しく暮らせる。

○環境自給が持続できるまち

- ・まちの中で衣食住が自立できるまち
- ・私の快適な居場所のあるまち
- ・安心と絆
- ・市民が消費だけでなく生産に携わるまち

○若者、よそ者、ばか者も、みんな参加し活躍できるまち

- ・全ての人がみんな活躍できるようなまち

○市民が名張のことをよく知っているまち

- ・みんなが名張に関心を持つことが大切。

○みんなが考え豊かなアイデアで挑むまち

- ・協働・活力、行政だけ、民間だけ、高齢者だけ、子どもだけで考えるのではなく、みんなで考えることができるまちが賑わい活力の創造を生む

○自然の恵みを感じて暮らせるまち

- ・身の丈に合った生活、町並みの景観保全、環境保全、身の回りの美化活動から環境づくり

○住んでいる人が故郷に誇りを持てるまち

- ・小さいころからの幼児教育、学校教育、高等教育、社会教育、生涯教育を通じて故郷の発展のための人づくり、人材を育てる

○助け合い支え合いのまち

- ・安全、安心して暮らせるまちづくり

○人と人、情報が繋がるグローバルなまち

- ・地場農産物の販売や、イベントが地区ごとにあるが、情報発信を強化し、世界で輝けるまち

○元気、自立

以 上

『ともに考え、ともに創り、ともに 実現するための計画づくり』

～(仮称)第7次名張市総合計画『市民ワークショップ』資料～

2014.11.10



本日お話しすること

- I. 総合計画とは??
- II. 名張市60年のあゆみ
- III. 『理想郷プラン』の概要
- IV. 社会環境の変化とこれからの課題
- V. 新しい総合計画の策定に向けて



I . 総合計画とは??

- 地方自治体が策定する自治体のすべての計画の基本となる、行政運営の総合的な指針となる計画。

- 「基本構想」

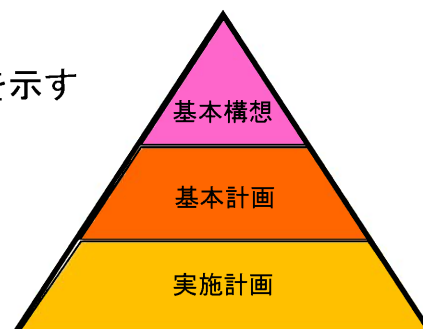
長期的(10年程度)なまちづくりの方針を示す

- 「基本計画」

中期的(5年程度)な行政計画を示す

- 「実施計画」

短期的(3年程度)な具体的施策を示す



Ⅱ.名張市60年のあゆみ

■名張市誕生から高度成長の時代(昭和29年～48年)

◇北田藤太郎市長の政策◇

～田園観光都市づくり 15万都市の建設～

四大政策：住宅地開発 ダム建設 国道165号整備 観光開発

《第1次》名張市総合開発計画(昭和47年1月)

◆名張市誕生から高度成長の時代(昭和29年～48年)

- 昭和29年 3月 **名張市が誕生**。市発足当時の人口は31,012人。
初代市長は北田藤太郎氏
- 12月 市庁舎焼失(翌30年12月新庁舎完成)
- 31年 8月 地方財政再建整備法の適用を受ける。(昭和36年まで)
- 34年 9月 **伊勢湾台風襲来**。死者11人をはじめ大きな被害を受ける。
- 38年～ **桔梗が丘住宅地の開発が開始**。これ以降大規模な宅地開発が相次ぐ。
- 39年 伊賀線西名張駅～神戸間廃止。桔梗が丘駅開設
- 45年 4月 青蓮寺ダム完成。室生・赤目・青山
国定公園が指定。
- 48年 4月 名張桔梗丘高等学校開校
7月 国道165号全線開通。



■都市規模拡大の時代(昭和49年～平成元年)

◇永岡茂之市長の政策◇

～美しい自然都市づくり～

人口急増への対応

教育の振興 新しい中心市街地整備 都市基盤の整備

《第2次》名張市長期総合計画(昭和52年3月)

《第3次》第3次名張市長期総合計画(昭和55年7月)

◆都市規模拡大の時代(昭和49年～平成元年)

- 昭和49年 4月 永岡茂之氏が第二代市長に就任。
- 50年10月 三重国体柔道競技開催。市民野球場完成。
- 52年10月 総合体育館完成。
- 53年10月 美旗古墳群国史跡に指定。
- 54年 1月 市の人口4万人を突破。これ以降も人口急増が続き、**昭和55年の1年間は全国一の人口増加率**を記録。昭和57年に5万人、昭和63年に6万人、平成3年に7万人、そして平成8年に8万人を突破、平成12年にピークに達した。
- 58年11月 青少年センター完成。
- 61年 4月 名張西高等学校開校。
- 62年 7月 中央東土地区画整理事業完成。
平尾山に新図書館が完成。
- 12月 **鴻之台に新市庁舎完成。**



■ 快適環境都市を目指して(平成2年～平成13年)

◇ 富永英輔市長の政策 ◇

～ 快適環境都市づくり ～

3大政策7大事業(生活関連施設整備)

- ① 保健・医療・福祉の充実 → 市立病院の整備
- ② 快適環境づくり → 公共下水道事業、新斎場の整備
- ③ 都市基盤の整備 → 既成市街地整備、中央西土地区画整理事業、名張駅前整備

《第4次》第4次名張市総合計画

ハーモニープラン名張21(平成4年3月)

《第5次》新しい名張市総合計画

なばり新世紀創造プラン(平成13年3月)

◆ 快適環境都市を目指して(平成2年～平成13年)

- 平成 2年 4月 **富永英輔氏が第三代市長に就任。**
- 4年 4月 名張駅東広場、東西連絡線、東駅舎が完成。
- 7月 名張市快適環境基本条例を制定
- 6年 4月 **市立看護学校が開校**
- 8年 4月 旧市庁舎跡地に総合福祉センター「ふれあい」が完成
- 9年 4月 **市立病院開院。老人保健施設「ゆりの里」オープン**
- 10年 4月 皇學館大学名張学舎が開学
- 10月 比奈知ダムの完成
- 11年 4月 産業振興センター「アスピーア」完成
- 12年 11月 国道368号上野バイパス完成



■福祉の理想郷を目指して(平成14年～)

◇亀井利克市長の政策◇

～福祉の理想郷を目指して～ 成長から成熟への転換

★市民主権のまちづくり

★暮らしの安全・安心

★市政改革

○第6次 名張市総合計画『理想郷プラン』

(平成16年3月)

※平成25年4月基本計画に 地域別計画編 を追加

◆福祉の理想郷を目指して(平成14年～)

- 平成14年 4月 亀井利克第四代市長が就任。
- 9月 財政非常事態宣言・財政健全化緊急対策を発表
- 15年 2月 伊賀地区市町村との合併の可否を問う住民投票実施
投票の結果、市民は単独自立の道を選択
- 4月 ゆめづくり地域予算制度創設
- 10月 市民と行政の約束制度創設
- 17年 6月 自治基本条例の制定
- 18年 3月 名張地区・桔梗が丘地区「まちの保健室」オープン
公共下水道の一部供用開始
- 8月 武道交流館「いきいき」オープン
- 21年 6月 市民情報交流センターが希央台に完成
- 23年 4月 皇學館大学が撤退、近畿大学工業高等専門学校
が開校
- 25年 4月 名張市こどもセンターがオープン
15の地域づくり組織が策定した地域ビジョンを総合計
画後期基本計画に反映
- 26年 1月 名張市立病院小児救急センターオープン
- 4月 名張版ネウボラの実施など、結婚・出産・子育て支援
の取組を充実



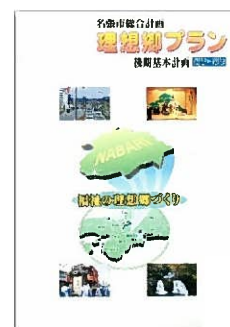
Ⅲ. 『理想郷プラン』の概要

■構成と計画期間

基本構想 2004年(H16)～2015年(H27)

基本計画 前期 2004年(H16)～2009年(H21)
後期 2010年(H22)～2015年(H27)

実施計画 3年間を基本に毎年更新



2004年度 (平成16年度)		2009年度 (平成21年度)		2010年度 (平成22年度)		2015年度 (平成27年度)	
基本構想(12年)							
前期基本計画(6年)				後期基本計画(6年)			
第1期実施計画 (3年)	第2期実施計画 (3年)	第3期実施計画 (3年)	第4期実施計画 (3年)	第3期実施計画 (3年)	第4期実施計画 (3年)	第4期実施計画 (3年)	第4期実施計画 (3年)

■名張の可能性(地域ポテンシャル)

1. 豊かな自然と田園環境

市域の37パーセントが自然公園区域、美しい山並みと清らかな水に恵まれたまち

2. 古くからの歴史と文化

豊かな交流が織りなす、万葉の時代からの歴史、文化が薫るまち

3. 多彩な人材に恵まれた住宅都市

多様な背景を持つ人々が暮らす快適な暮らしのまち

4. 多様な地域が分散する地域構造

既成市街地、新しい住宅市街地、集落地域など、性格の異なる地域が調和・共存するまち

5. ふるさとを愛する自主自立のまち

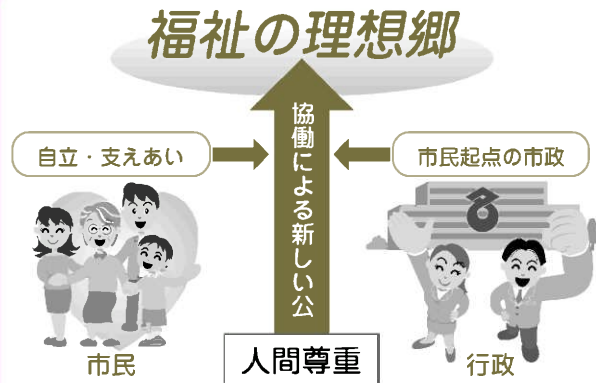
住民投票を経験し、住民主体のまちづくりに挑戦するまち

■まちづくりの基本理念

『人間尊重を原点に 自立と支えあいにつくる 福祉の理想郷』

「人間尊重」をまちづくりの原点に据え、市民一人ひとりの自立を基本に、生涯を通して自らの夢に向かって生きがいを持って暮らすとともに、相互に多様な価値観や個性を尊重しあい、支えあうことで信頼と安心に満ちた地域社会の創造を目指します。また、行政は「市民の幸せ」をすべての基準とする市民起点の市政を進め、市民と行政がお互いの役割と責任を自覚しながら「新しい公」を確立し、力を合わせて心豊かで質の高い地域社会築き上げる「人間尊重」原点に、自立と支えあいにつくる福祉の理想郷」をまちづくりの基本理念とします。

—名張市総合計画より—



■将来都市像

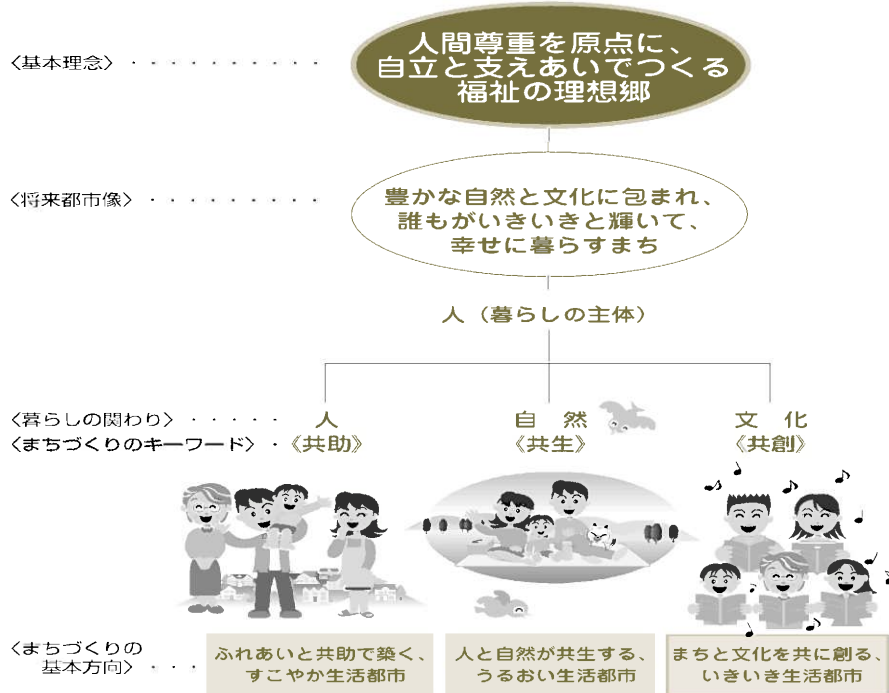
『豊かな自然と文化に包まれ、 誰もがいきいきと輝いて 幸せに暮らすまち』

最大の地域資源である「暮らしのまち」を視点に、恵まれた水と緑の自然環境や、先人が築いてきた豊かな歴史・文化、蓄積してきたさまざまな都市機能などの財産を大切に生かし、安心、安全で快適な生活環境や名張ならではの質の高い暮らしを創造するとともに、名張の最大の財産である市民一人ひとりが、自立と参加を基本に、地域社会のなかで心豊かに交流し、支えあいながら、生きがいを持って暮らし続けていくことで、誰もが真の幸せを実感できるまちの創造を目指します。

—名張市総合計画より—

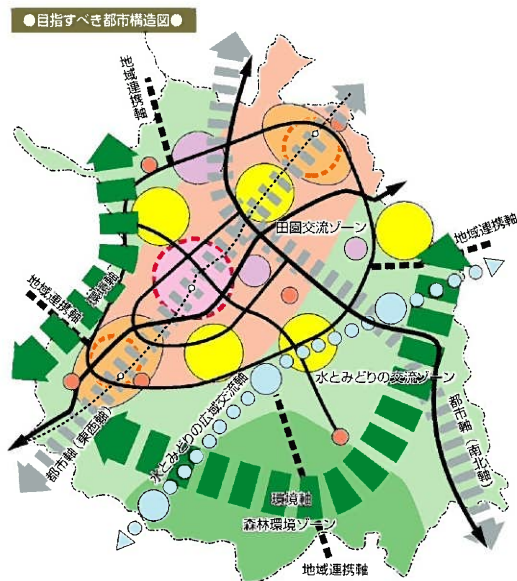


■まちづくりの基本方向



■都市空間形成の方向

『暮らし広がる連携型都市構造の形成』



1 地域特性に応じた多様な拠点づくり
 名張市の顔であり広域的な都市拠点として位置づけられる中心市街地の都市機能の向上をはじめとして、住宅市街地の質の高い住環境の形成、集落地域の生活環境の保全、市上などに取り組み、それぞれの地域個性が強く、誇りの持てる多様な拠点づくりを進めます。

2 地域連携を促進する重層的なネットワーク（軸）づくり
 中心市街地を核として、多様な拠点を結びつけ、地域間の機能分理と相互補完によって豊かな市民生活が可能となるように、市域内外の交流・連携を促進する道路・交通・情報通信などの重層的なネットワークを創造します。

3 広がりある魅力的な空間づくり
 地域間の交流・連携の促進により、身近に豊かな自然とふれあうことのできるゆとりある都市環境や都市的サービスを受受できる集落環境の整備によって、広がりある市民生活が可能となる質の高い魅力ある都市空間を創造します。

—名張市総合計画より—

■改革達成、名張躍進に向けた取組

1. 市民主権のまちづくり

- ・地域予算制度(夢づくり地域交付金)
- ・公民館等の地域委託の推進
- ・地域部の新設と担当監の配置などの体制強化
- ・市長の街かどトークなど、市民との情報共有

2. 暮らしの安全、安心の確保

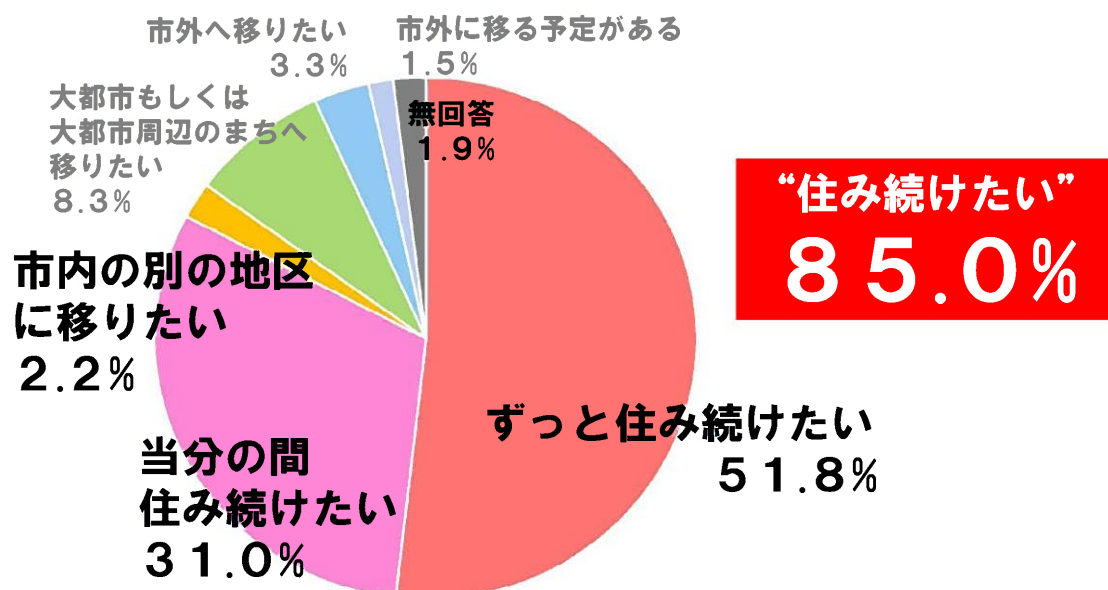
- ・健康なばりの実現
- ・地域福祉の推進
- ・安心な地域医療体制の構築

3. 市政一新(行財政システム改革)

- ・市政一新プログラムの推進

■市民意識調査(Q.継続居住意向)

○ 85%の人が名張市に住み続けたいと思っている。



平成26年度市民意識調査より

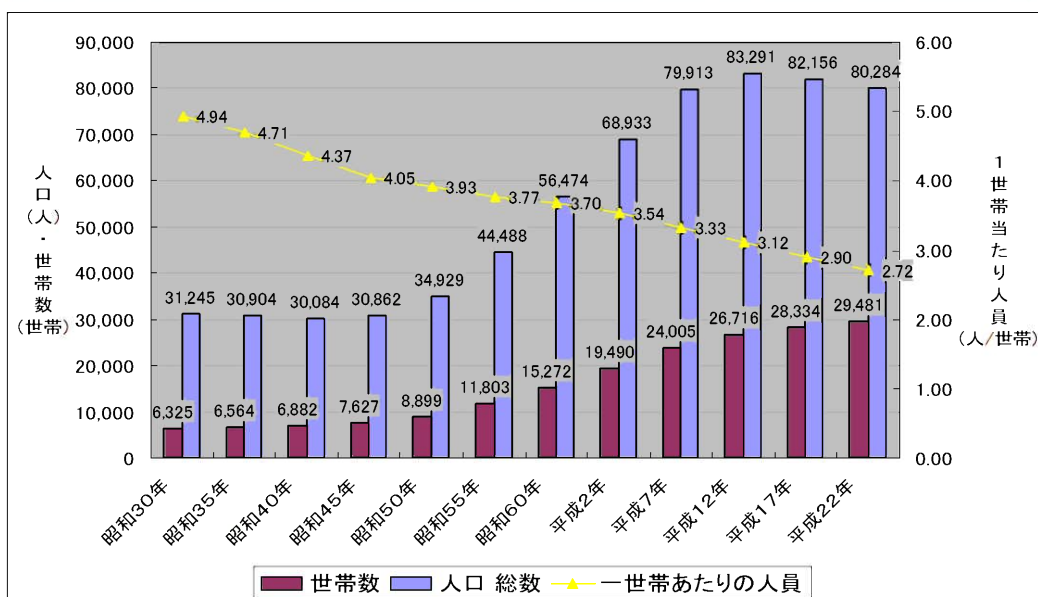
IV. 社会環境の変化とこれからの課題

■ 地方自治体を取り巻く環境の変化

- 少子高齢化と人口の減少社会の到来
- 循環型社会への転換
- 情報化・国際化の進展
- 安心・安全の確保
- 地方分権の進展と市民参画
- 成長社会（量）から成熟社会（質）への転換
- 行財政改革の推進

■ 名張市の人口等の推移

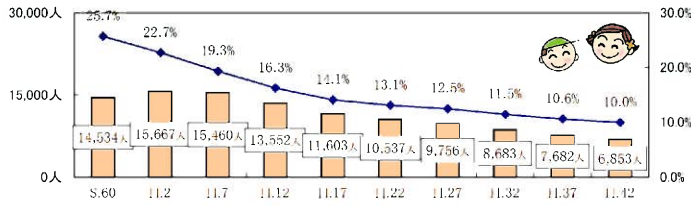
○ 本市の人口は、昭和40年代後半から急激な増加を続け、平成12年をピークにその後は減少に転じている。本年10月1日現在の人口は81,088人とピーク時から約2,000人、年間平均300人程度減少している。



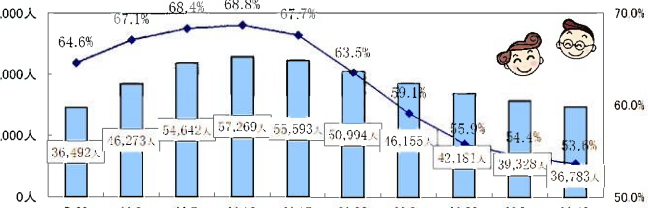
出典:国勢調査(各年10月1日現在)

■名張市の年代別人口推計

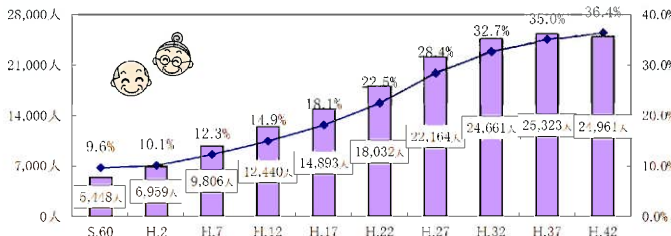
<年少人口の推計>



<生産年齢人口の推計>



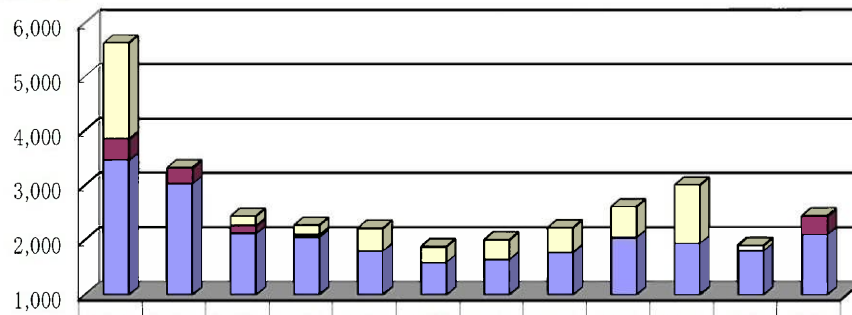
<高齢者人口の推計>




■名張市の財政状況

- 歳入減、歳出増
- 財政調整基金の枯渇(年度間調整が困難)
- 今後もまだまだ楽観視できない状況が続く

(百万円)



	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
□財政調整基金	1,758	5	181	180	421	294	362	455	569	1,077	103	14
■減債基金	394	294	145	45	5	5	5	5	1	1	1	336
■その他特定目的基金	3,471	3,040	2,126	2,061	1,803	1,593	1,648	1,778	2,054	1,943	1,806	2,107



■これからの課題

●質の高い暮らしと地域づくり

支える人の水かさを増すことにより地域力が向上する

●名張力の向上(突出機能の創出と交流)

名張の個性を磨き、生活都市としての魅力を高める 情報発信力の劇的向上

●超高齢社会への対応(2025年問題)

生涯現役社会…元気高齢者が活躍する社会を創る攻めの施策展開

●知と情報の活用(スマートシティ)

知がまちづくりを変える…知の爆発に対応するインフラ整備、戦略

●持続可能な都市経営

地域づくりマネジメント 公共施設マネジメント

●さらなる改革—ガバナンスの向上、財政再建

ON THE TABLE(公開、参加、説明責任) 財政健全化 行政品質向上

V. 新しい総合計画の策定に向けて

■ (仮称) 第7次名張市総合計画策定基本方針

- 超高齢化社会など、社会環境の大きな変化への対応
- “人や企業から選ばれるまち” を目指して

『理想郷プラン』をベースに、新たな視点を取り入れながら、より戦略的で実効性の高いプランとなるよう取り組みます

- 名張躍進に向けた政策展開の指針づくり
- 戦略性が高く持続可能な行政経営のための計画づくり
- 「市民力」の向上を目指した計画づくり
- 運用を見据えたわかりやすい計画づくり

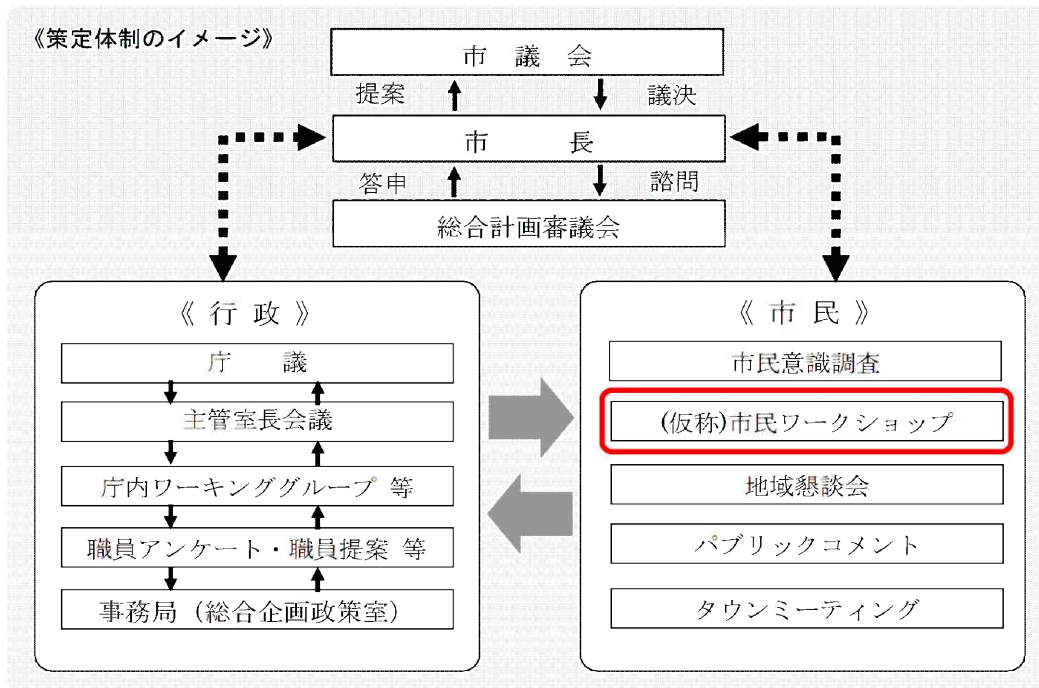
■ 計画の構成と期間

- 『構想』と『計画』の2層制(実施計画を廃止)
- 構想概ね10年、計画4年(市長任期と連動)
- 『財政計画』との整合

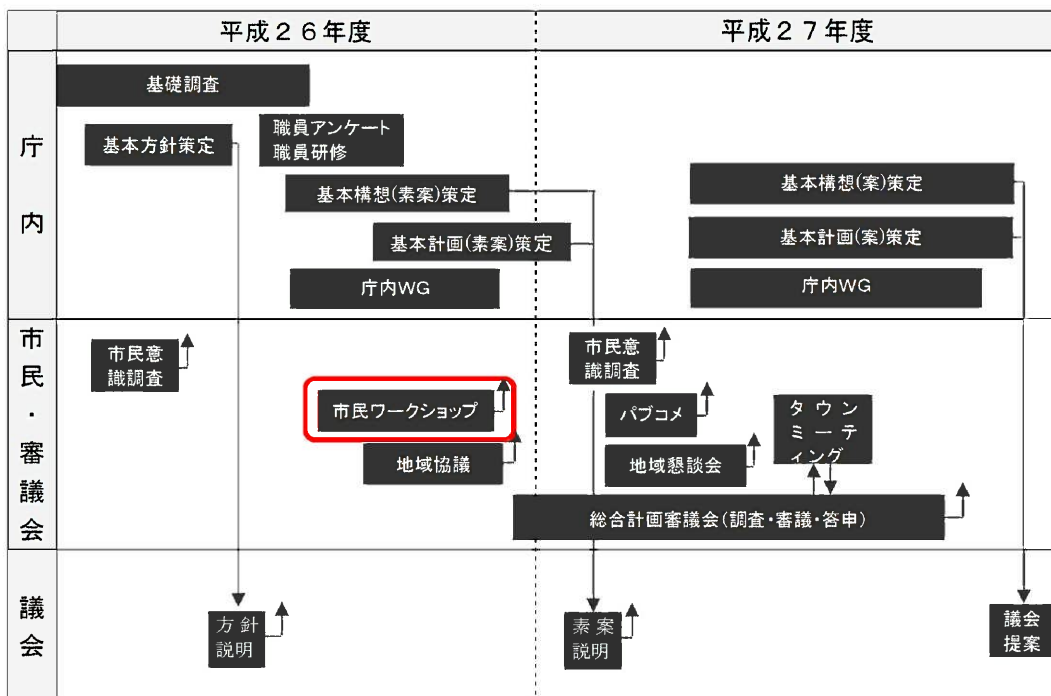
《計画の期間》



■ 計画策定の体制と手法



■ 策定スケジュール





ご清聴ありがとうございました。